

青少年健全育成のために「子育て」で繋がる方策

令和5年度 中間市青少年問題協議会「基本理念」

「この街で、子育てがしたい 中間市」
～こどもを中心に、みんなで子育て～

安全安心まちづくり課「中間市少年相談センター」

【1. 青少年問題への考え方と今後の方向性】基本理念

中間市の少年非行は、学校や関係団体等の努力で年々減少傾向にある。しかし、ここ数年続けて悲惨な事件や事故で、尊くて幼い命が亡くなっている。また、目に見える非行は減少しているものの、ネットや家庭内での問題は見えにくく、つらい思いをしているこどもも多くいるのではないかと懸念している。

今後、つらい思いをしているこどもや犠牲者を絶対に出さないためにも、中間市が青少年の健全育成に「こどもを中心に据えた取組」を一丸となって取り組まなければならない。

そのためには、保幼小中高の学校や行政だけでなく、地域や関係機関、団体が連携して子育ての環境をつくるのが大切である。そのつながる環境の中で、みんなから見守られ子育てができると感じた親は、「この街で子育てがしたい」と思える街づくりを目指したい。

【2. 青少年を取り巻く課題】変えていきたいこと

(1) 子育て及びこどもや家庭の課題

- 十分に目が届かないことから痛ましい事件や事故が続いている（令和2年8月・令和3年7月）
- 家庭の教育力（家庭力）に格差があり、乳幼児期からの一貫した子育てへの意識を高める必要がある
- 子育てに対して中間市の課題に応じた一貫した方策を市民や保護者に対して啓発する必要がある
- 目に見える少年非行は減っているが、ネットや家庭内などのいじめや性被害や虐待が多くなり見えにくくなっているからこそ、ネットワークをつくりアンテナを張って対応できる体制が必要
- 自己肯定感が低く、人間関係にトラブルを抱えやすくすぐに諦めてしまう子が多くなり、不登校や生きづらさを感じるこどもが増えている

(2) 地域・家庭・行政・学校の連携不足

- それぞれの行政や関係団体が、地域や学校、園の子どもたちに関わっているが、個の力にたよる対応になり、特に孤立した家庭には、周りが支援しにくい状況がある
- 家庭、地域、学校、行政、関係団体が、子どもを中心にみんなで子育てする体制が必要である
- 地域・学校・家庭が協働した次世代を育む教育としての取組が不十分である
- 中間市の子育てにおける「自己肯定感」等をキーワードに、各組織や団体を繋ぐことが必要

【3. 中間市として取り組むべきこと】 3つの提言

(1) 組織的に「自己肯定感」を育む

自己肯定感が育まれた子どもは、「チャレンジする勇気」「壁にぶつかってもへこたれない強さ」「相手の気持ちや立場を認められる」といった社会で自立する力を備え、自信を持って前向きに生きる社会性を高めることができる。親の愛情や周りから認められる環境の中で、自分を価値ある存在として捉え、家庭・学校・地域の中で必要とされていると感ずることができる。自己肯定感を育むためには、小学校中学年までの時期に遊ぶことや自分が好きなことに熱中する体験が大切で、特に親との密なコミュニケーションが成長に欠かせない時期である。

さらに、この時期はその子の器を大きくする＝自己肯定感を育てる大切な時期でもある。この時期に肯定感を高める環境をつくることによって、知識、情報、社会のルールといった水を受け止めるその子の器を大きくすることになり、将来の問題行動を摘み取ることにもなる。私たちが、子どもたちを認め、みんなで育てようとする愛情が、自己肯定感の育成に欠かせない。子どものために私たちができることを考え、家庭での子育てだけでなく、学校や地域においても自己肯定感を育むために笑顔で声かけや挨拶を組織的に行うことが大切である。

また、子どもたちの自己肯定感は、地域の「つながり格差」で左右されるとの指摘もある。家庭・家族と子どものつながり、地域・近隣社会と子どものつながり、学校・教師と子どものつながり等が豊かな地域の子どもの肯定感は高く、学力にも影響していると言われる。地域のつながりを子育てで育むことも必要となる。

(2) 地域の子育てというコミュニティをつくり、将来の展望を持たせるようなロールモデルとの出会いや将来の夢や学習意欲に繋がる『カッコいい大人』との意図的な出会いができる体制づくり（連携）

「将来の展望」、「自己肯定感」、「学習意欲」の3つの間には一定の相関関係が見られる。学習意欲を高めるた

めには、自己を肯定し自分に自信を持つこと（自己肯定感）、そして将来の夢を描き自分の未来に可能性を見いだすこと（将来展望）が鍵を握っている。

そのために、自己肯定感を育みながら、家庭・学校・地域の中で子どもたちに自信を持って将来の展望を考えさせる器を作ることが大切になる。また、中間市として次世代を育む教育に取り組むために、家庭や学校だけに子育てや教育を任せるのではなく、地域の中でも「自己肯定感の育成」「ロールモデルの育成と出会い」「魅力的なカッコいい大人との出会い」を意識した出会いの場の設定が必要となる。思春期からは「ななめのつながりの必要性」とも言われている。小学校高学年以降は、同級生との横の関係、親子・兄弟の縦の関係でもない「ななめの関係、外の師匠」との出会いが将来の展望や学習意欲に重要である。組織的に「カッコいい先輩」「カッコいい大人」「憧れる存在」との出会いの場を意識して「外の師匠」との関わりの中で、子どもたちに夢や希望を持たせることが大切となる。特に、「地域の中に眠っている「カッコいい大人」「魅力的な大人」や「中間の良さ」を発掘し出会いや良さを伝え、地域への誇りを持たせることも必要である。

（3）次世代を育む教育のための情報交換と組織づくり

次世代を育む教育が、地域のあらゆる生態を潤わせ、生きる力を充たし、大きな世界に導く「水」となることを中間市として共通認識を持つことが大切である。中間市として子どもに関わるための情報交換ができ、対応することができる施設・組織づくり（子どもセンター等：乳幼児から青少年に対応）に取り組むことが大切である。

【4. これから子どもたちのためにできること】意識化

・今取り組んでいることを繋ぎ、新たに少し連携してできることは

キーワードは 『笑顔』 Smile back 微笑みがえし ～例えば～

・学校

保幼小中高の連携を図り、相談や対応ができる体制づくりと情報の共有

自立できる力「自己肯定感」の育成

ロールモデルとの出会いと育成（保幼小中高の連携）

中間市の課題に応じた、正しい子育ての啓発活動「自己肯定感」⇒ 『Smile big! Project』



- 民生児童委員、保護司会、行政

関係機関や団体との連携（相談）（声かけ）

中間市の課題に応じた、正しい子育ての啓発活動『自己肯定感』⇒ 『Smile big! Project』

- 自治会、子ども会

地域のこどもたちへの声かけや情報提供、安全指導（声かけ）⇒ 『Smile big! Project』

ロールモデルとの出会いと育成

外の師匠との出会い



- 市民会議、PTA、婦人会

青少年健全育成のための子育て「自己肯定感の育成」への意識高揚を図る市民への啓発活動

及び情報収集⇒ 『Smile big! Project』

外の師匠との出会い



- 体育協会、文化団体

人を育むスポーツと文化のまちづくりのための環境整備⇒ 『Smile big! Project』

と総合型地域スポーツクラブの推進⇒ 部活動の地域移行⇒ 外の師匠との出会い

スポーツ少年団・中・高等学校部活動との連携

ロールモデルとの出会いと育成 外の師匠との出会い

- 折尾警察署、中間市防犯協会、中間市少年相談センター、中間市生徒指導推進協議会

情報共有と相談や対応できる体制づくり、安全指導と巡回や環境づくり

ネット型非行を管理し情報収集するためのネットパトロール

正しい子育ての啓発活動「自己肯定感」「子育て講演会」⇒ 『Smile big! project』

こどもを中心に据えたみんなで子育てのコーディネーターの役割を少年相談センターが担う



【5. 今後の計画】

(1) 「こどもを中心にみんなで子育て」長期計画 (5年間 ⇒R5～R9)

令和5年度 こどもたちの自己肯定感を高めよう

～自己肯定感って何！ なぜ自己肯定感！ どうやって高めていくの！～

○チラシを使って啓発と実践できることを進めたい

「自己肯定感を育む、笑顔であいさつや声かけ」 「Smile big! Project」

笑顔で子育て、笑顔で声かけ、Smile back 微笑みがえし、

笑顔でこどもたちを見守ろう

各学校(小中高)・園・で全児童生徒にチラシを配布し、学校・園での実践をお願いする。

PTAとも連携したい。

「市職員や補導員などへ、こどもたちへの積極的なあいさつや声かけ」

市職員への啓発



令和6年度 みんなで子育て「自己肯定感を育む笑顔であいさつや声かけ」 「Smile big! project」

～市内みんな笑顔でこどもたちへあいさつや声かけをしよう～

令和7年度 みんなで子育て「地域の中でカッコいい大人や先輩との交流」啓発と発掘

～地域の中でこどもを育てるにはどうしたら良いの～

令和8年度 みんなで子育て「地域の中でカッコいい大人や先輩との交流」啓発と実践

～地域の中でカッコいい大人や先輩と関わろう～

令和9年度 こどもを中心にみんなで子育て「この街で子育てがしたい」総括と今後の計画

～こどもを中心にみんなで子育てができてきたのかな！～

～こどもたちが安心して将来の展望を持ち、安全な子育ての環境ができてくの～



Warm everyone's heart

心とつながる あたたかさ

子どもの頃の出会いや経験は、人生に大きな影響を与えます。特に、そばにいる人、見守ってくれる人の存在は、心の豊かさをも左右する大切なものです。

近年では核家族化や地域との関わりの希薄化が進み、子どもたちが大人と関わる機会さえも減少しており、心と心がつながりあえる機会は、ますます乏しいものとなっています。

今号の特集では、そのような環境の下でも、子どもたちに寄り添い、あたたかい気持ちを届ける活動を紹介します。

●子どもの頃の人間関係とへこたれない力の関係

程度	Q.子どもの頃に近所の人に褒められたこと			Q.子どもの頃に近所の人に遊んでもらったり、教えてもらったこと		
	高	中	低	高	中	低
何度もある	44.6	42.2	13.2	46.6	40.9	12.5
少しある	20.6	58.3	21.2	19.7	58.9	21.5
ほとんどない	11.6	45.6	42.8	15.1	46.0	39.0

■ 高群 ■ 中群 ■ 低群

参照：国立青少年教育振興機構「子供の頃の体験がはやくむかとの成果に関する調査研究」

(2) その他の取組と開催時期

・子育てアンケート調査

子育て中の未就学児の家庭

⇒ 将来的には多くの市民へ

・子育て講演会

既存の予算で、各関係団体が行っている

講演会を活用し方向性を合わせてはどうか

・令和5年度第1回中間市青少年問題協議会（令和5年5月）

令和5年度から各団体で市内統一して実践できることを願う「Smile big! project」

これから子どもたちのためにできることは

※ 「子育てで繋がるまちづくり」ができれば、こどもが変わる

※ みんなでできることを取り組み、「愛されている」「ここにいてよかった」と思える
「自己肯定感」を育てる取組「笑顔であいさつや声かけ」「Smile big! Project」を
『持続』していくことが大事！

～子育てで一番大切なことは自己肯定感を育むこと～

【自己肯定感が育まれたこどもの特徴】

- ① 新しいことにチャレンジする勇気が持てる。
- ② 壁にぶつかったとき、乗り越えていける
- ③ 相手の気持ちや立場を認められる



【自己肯定感が低い人の特徴】

- ① 失敗を恐れはじめから挑戦しない (努力をしない。無関心を装う。)
- ② 自分が優れていることを証明しようとする (自慢話ばかりする。他人を批判してばかり。)
- ③ 自分に自信がなく諦める癖がついている (私なんてとすぐ思ってしまう。どうせ無理が口癖。)
- ④ 自分の軸がなく他人に依存してしまう (他人からの評価を過度に気にする。過度に人に気を遣う。)



Smile, and the whole world will smile back at you!

あなたが微笑めば、世界中のみんなが微笑みを返してくれる！

Nakama, Smile big! Project!

「笑顔は人を繋ぎ、人に癒やしを与え感情を育て、こどもたちが元気になる！」

「中間市が好き。でも一番好きなのは中間市のみんな！」